

王 継偉 氏の学位論文審査の要旨

論文題目

A qualitative study on quality of life among the floating population and a relevant study on creating supportive volunteering system for intervening in Shanghai, China

(上海市出稼ぎ難民の Quality of Life の向上に関与する因子の解析とそれを支援するボランティア組織の整備に関する研究)

背景と目的：本研究の目的は上海市出稼ぎ難民 (floating population) の Quality of Life の向上に関与する因子の解析と、それを支援するボランティア組織の整備に寄与する因子を明らかにすることである。今回は、上海市出稼ぎ難民を対象にした Quality of Life (QOL) に関する質的研究 (研究1) および上海市の地域健康ボランティア (community health volunteers) を対象にした、社会認知的観点からの横断的量的研究を行った (研究2)。

方法：研究1では、出稼ぎ難民が上海での日常生活で直面する QOL 関連の深刻な問題を明らかにするために、58名の上海市出稼ぎ難民に対する質的研究を行った。グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいた研究デザインと分析を実施した。総勢58名、全8回のフォーカス・グループ・インタビューが行われた。インタビュー参加者の発言の逐語録に対する Thematic analysis (主題分析) を行い、カテゴリーとサブカテゴリーを抽出した。研究2においてはボランティア活動におけるボランティア組織の環境、自己効力感、動機付け、そしてボランティア参加意図の関連を明らかにするために、Bandura の社会認知理論と Ajzen の計画された行為に関する理論 (theory of planned behavior) を適用し、198名の上海の地域健康ボランティアを対象に質問票を用いた横断的量的調査を実施した。探索的因子分析および多変量回帰分析を用いた mediation analysis (介在因子分析) を行った。

結果：研究1において、出稼ぎ難民の QOL に関連する領域 (ドメイン) として、個人的発展、仕事とキャリア、家庭生活、社会的関係、社会保障の5つの生活関連カテゴリーが明らかとなった。トレーニングが受けられない、低賃金、別居、帰属感欠如、医療への劣悪なアクセスなど、各領域で出稼ぎ難民の QOL にネガティブに作用する因子が複数存在した。また彼らの生活のこれらのすべて側面が社会におけるスティグマと差別によって強い影響を受けていた。研究2においては、ボランティア組織の環境 (組織との関係、政府からの支援)、動機付けに関わる因子 (個人的態度と社会的認知)、自己効力感、ボランティア意図の6つ子が探索的因子分析で明らかとなった。多変量回帰分析によって、ボランティア意図における分散 (variance) の 14.8% を組織との関係が説明し、自己効力感と個人的態度における動機付けが、ボランティア意図に対する組織との関係の効果に部分的に介在していることが示された。さらにボランティア意図における分散の 33.7% を、組織との関係、自己効力感、そして個人的態度における動機付けが説明していた。

結論：両研究より、上海市出稼ぎ難民の QOL を改善するために必要な因子と政策に関する洞察と、地域健康ボランティアの発展に影響を与える因子と方策に関する示唆が得られた。しかし今回の研究1と研究2は現時点では総合的観点からみて十分に強い相互関連性を有しておらず、出稼ぎ難民の QOL を改善するために必要とされる明確な将来の行動プランを提唱できていない。したがって、今後は出稼ぎ難民の QOL 向上に対する地域健康ボランティア活動のインパクトを直接的に検討する更なる包括的研究が必要であろう。

審査会では3名の審査委員から、研究1と研究2の関連性、両研究における質問内容の一貫性と理論的連続性、両研究の研究対象者のサンプリング手法、上海出稼ぎ難民に対する地域健康ボランティア活動の実態、現在の上海における出稼ぎ難民支援活動を担う医療専門職および関連職の有無、上海の文化、社会、経済的特異性の研究知見に対する影響、出稼ぎ難民に対する現在の政策、コントロールグループの設定、グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいた継続的比較法を含むインタビュー実施の詳細、上海出稼ぎ難民を対象にした横断的量的調査の必要性など多数の質問が出されたが、学位申請者からは概ね適切な回答が得られ、医学博士の学位に値する研究論文であると判断した。

審査委員長 生命倫理学分野担当教授

浅井 篤

審 査 結 果

学位申請者名： 王 繼偉

分野名： 環境保健医学

学位論文題名：

A qualitative study on quality of life among the floating population and a relevant study on creating supportive volunteering system for intervening in Shanghai, China

(上海市出稼ぎ難民の Quality of Life の向上に関与する因子の解析とそれを支援するボランティア組織の整備に関する研究)

指導： 上田厚 前教授

加藤貴彦 教授

判定結果：

可

不可

平成22年6月10日

審査委員長 生命倫理学分野担当教授

浅井 篤 印

審査委員 代謝内科学分野担当教授

荒木 栄一 印

審査委員 神経精神科学分野担当教授

池田 学 印